

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770302186		
法人名	医療法人協仁会		
事業所名	グループホーム第2なごやか		
所在地	大阪府寝屋川市黒原城内町25-7		
自己評価作成日	平成24年10月15日	評価結果市町村受理日	平成24年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成24年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

H22年度より地域の方の協力・指導を受け、庭に畑を作り季節の野菜作りを行なっている。毎6月には畑の収穫を祝い地域・家族・包括・お世話になっている方々等を招いてじゃが芋パーティーを行なっている。玄関先には職員・入居者とレンガ等で花壇を造り、季節の花々を育て観賞している。入居者の方も「綺麗ね！可愛いね！」等の言葉も聞かれる。食事を入居者の方の希望を聞きメニューに取り入れれたり、その方に合った量の食事を提供する事により肥満の防止・また血液検査等のデータも改善されてきている。H23年度は今までの事は継続すると共に、日中の生活を充実したものと新たにレク委員を作り取り組んでいる。毎月1・2階合同レクを行ったり、計算や読み書き・色塗り等その方にあった学習を行なう事で、集中力・笑顔も増えてきている。

事業所の地主が自治会の会長であり、また地域福祉の推進に積極的な人物である。認知症の施設が出来ることも受け容れてもらい、地域と施設の垣根を取り除く事にも応援してもらった経緯がある。地域が推進する福祉活動である『安心と希望の委員会』主催に協カスタッフとして事業所の管理者が名を連ね、徘徊模擬訓練が和光校区自治会内で行われた。今後も継続して意欲的に地域根ざしていく活動を続ける方針である。庭に畑を作る事や肥料、苗等についても地元から指導・支援を受けた。いろいろな野菜を収穫する事が利用者の楽しみや意欲、地域の方々との会話など良好な関係が出来ているという効果にも寄与している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員が理解し年間目標に具体化させる事により職員の意識付けを行い、日々のケアに努めている。	1、人権の尊重及び身体拘束を排除し、安全と生活を守る。2、より質の高いケアとサービスの提供。3、家庭や地域に開かれた施設を理念とし、ホーム内に掲示し、職員全員で実践に励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい	運営推進会議や、地域行事に参加させて頂いたり、また昨年度より地域ボランティアの方と(夏場冬場を除く)毎週月曜日に防犯パトロールを行い、入居者の方の社会参加の場として行なっている。	自治会に加入し、各種行事に参加している。地域の方と野菜作りを頑張っている。今年度は収穫パーティーが行われた。音楽療法、傾聴等ボランティアの定期的な来訪もある。昨年より毎週月曜日防犯パトロールを行い、入居者の社会参加に意欲的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度より和光校区(6自治会)で行なっている「安心と希望の委員会」に参加させて頂いており、昨年度は大阪府のモデル事業「徘徊模擬訓練」今年度は「独り暮らしの高齢者の見守り」を地域の方と取り組んでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者・ご家族の方の要望・意見等を行かせる様に、自治会長・包括支援センターの方等にアドバイスを頂き地域の方のご協力を頂いたり、包括支援センターの方に研修をして頂いたりと向上につなげている。	運営推進会議は年6回開催されて居り、ホームのサービス情報や行事の予定、実施状況、事故報告、ヒヤリハット等の話し合いや、外部評価の結果の公表も実施している。今後もより相互理解を深めていけるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	「安心と希望の委員会」では高齢介護室・包括支援センターの方と共に「認知症になっても安心して暮らせるネヤガワ」を目標に取り組んでおり、相談や研修等行なっている。	日頃から市町村への連絡・報告を行い、グループホーム連絡会にも積極的に参加、事業所の実情やサービスの取り組み方についての相談・意見交換をおこない、サービスの向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を受講したりし職員の身体拘束に対する意識も高く、身体拘束0を目指し実践している。玄関の鍵についてはデメリット等もあり、庭の門扉の位置を変え開放的に過ごして頂ける様に工夫を行なっている。	身体拘束が利用者にも与える弊害を職員はよく認識し、それをしないケアの実践に努めている。玄関の鍵については車の交通量が多く危険防止上やむなく施錠しているが、門扉の位置を変えた事で閉塞感はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	包括支援センターの方等に研修をして頂いたりし、職員間で話し合いの場を持ち防止に努めている。市の方より虐待等の困難事例の方の相談もあり受け入れを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の日常生活自立支援事業の方の支援・成年後見人の支援を受けておられる方には定期的な訪問がある。今後も必要な方については相談にのり支援を行なっていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に運営規定や利用契約、重要事項説明書などを明示、説明し理解・納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時等には出来るだけご家族とコミュニケーションの機会を持ち、意見や要望・不満等を気軽に言っていただけるように努めている。また入居者の方にも希望を聞いたりし反映に努めている。	家族の来訪時には利用者の暮らしぶりを伝え、意見要望を聞くようにしている。利用者の希望や意向は態度や表情で、ゆっくり聞き出すことで把握し、管理者、職員で話し合い、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議や問題が生じた時に意見や提案等を聞いて、すぐに解決・改善できる事は出来るだけ早く対応を行なうように、またすぐに解決できないような内容の時は上司に相談し反映の努めている。	月1回なごやかフロア会議を開催し、管理者は職員からの意見、提案を歓迎する等、日頃からの良好なコミュニケーションや話し合いに努めている。また各種委員会を設け職員は何れかの委員会に入り、提案を行って改善に繋げる努力をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年給与の引き上げを行なっている。現在人事考課を法人全体で作成しており、職員のやりがいになるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に応じて様々な研修会等に参加させるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの職員との交流を図り情報交換をおこなったり、市の包括支援センターが主催する研修会や会議等に参加しサービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ側に寄り添える様に心がけ、ゆっくりと話が聞ける時間・環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には見学や体験・説明等を行い、不安の解消や要望を聞き入居後のサービス		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があれば話し合い支援を見極めて、出来る限り支援を行い施設内だけでは難しい場合は法人内の多機能性を利用したり、包括支援センター等に相談する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と一緒に生活する事を大切にし一日の生活の流れに沿って家事全般を共同で行っている。その中で学び支え合う関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に気付いた事や要望等を普段からコミュニケーションを取り話やすい関係づくりに努めている。各月時発行のなごやか便りでは近況報告を取り入れてる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との連絡(電話、なごやか便り)や面会しやすい雰囲気を作るよう日々努めている。また、自治会の行事や食事等に参加し関係継続の支援を行なっている。	本人が大切にしてきた、馴染みの方々との関係が途切れぬよう、お祭りや、地域の行事には、積極的に参加している。近所の友達が気軽に訪ねてくることもある。特別な場所へは、家族にお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を理解し孤立しないよう一人一人に合わせた場の提供を行なう。趣味や特技を活かし、入居者同士が共感したり学び支え合う環境作りが出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話連絡や手紙で現状を尋ねたり、面会に行くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活のなかでどんな暮らしをしたいか、どんなことをしたいか本人の希望を引き出すケアに努めている。	職員全員が利用者に対する気付きを出し合い、一人ひとりの思いや暮らしぶりをしっかり把握し、本人の希望や意向に沿った支援が出来るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時はもちろん普段の面会時などに、家族に聞き取りながら、把握に努めている。以前の施設やケアマネ、民生委員からの情報を得たりもしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画書や毎日の申し送り、その他にも日々の変化や気付き等記載、報告し把握出来る様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を定期的実施して、入居者の状況や家族の希望、ニーズに対しての継続性等を話しあいカンファレンスを行い介護計画を作成している。	3ヶ月毎にサービス担当者会議を行い、見直しをしている。本人の状況に変化があった時は、随時ケアのあり方について、本人、家族、担当者で話し合い、現状に即した計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り、個人記録を残し情報の共有に努めている。また、スタッフは担当の入居者には特に、意識を持ちケアについてはアイデアの提供に努め、見直しに活かせるよう心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望があれば、その都度部署内だけでは難しい場合は法人全体の多機能性を利用したり包括支援センター等に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方と毎月曜に防犯パトロールを行ったり、地域行事に参加したり、地域の方が見守りを行なって頂いたり、個々の傾聴を行なって頂いたりと安心して心豊かに暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内での診察や非常勤の看護師の連携により支援をうけている。通院が困難な方は法人内の往診を受けている(24時間体制)	家族及び本人の同意を得た上で、法人内の病院の医師をかかりつけ医とし、週1回の往診を受けている。特別の医療機関の受診については、家族へ協力をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師による健康チェックがあり日々の状態を報告・相談し、助言など協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内の病院に入院することが多い為、まめに面会したり病院関係者と情報交換や相談を行い状態が落ち着けば早期退院に向けた受け入れ等で協働している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には不安のないように説明を行い、重度化や終末期等には医師・看護師・家族・職員等を含めその方の希望や状態に応じその後の方向性について話し合い支援している。	以前に看取り支援を経験している。母体病院の協力もあり実施に至ったが、終末期看取り指針や同意文章などはまだ揃っていない。	重度化や終末期ケアの事業所としての方針を文章化し、初期の段階から家族の早急にしていただきたい。医療連携加算を算定する上での必要事項を確認し、書類を揃えることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年の1月には消防署・寝屋川市が主催する普通救命講習会にスタッフ全員が参加し心肺蘇生法・AED・救急処置等の講習を受け修了証を貰った。また看護師による学習会等を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い、昼夜の避難方法の確認を行なっている。自治会の方・消防署の方と一緒に避難訓練も行った。毎秋に校区の防災避難訓練に参加。今年の8/14短期集中豪雨時も自治会から安全確認の為施設に来訪があった。	年2回避難訓練を行っている。自治会、地域の方、消防署と一緒に訓練も行っている。校区の防災避難訓練に毎年参加している。今年水害時すぐに自治会の支援があった。今後も協力体制の維持継続を期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い等については常日頃から、スタッフ一人一人が自覚を持ち、またスタッフ同士が注意しあえる関係作りの強化に努めている。個人情報については、保管場所を決めて取り扱いには十分配慮、注意している。	利用者への言葉かけや対応に注意して、利用者の誇りやプライドを損ねない対応がされている。個人情報の漏洩防止にもつとめている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の援助の中で自然に入居者の思いや希望を話せるまたは話しやすい環境作りを心掛けている。自己決定が行なえるような雰囲気、助言、選択等の働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れは決まっているが一人一人のペースを大切にしその人が望む暮らしをモットーに支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、訪問理美容に来てもらい好みのカットやパーマ、カラー等楽しめるようになっている。また家族の方と馴染みのパーマ屋さんや散髪屋さんに行かれたり希望があれば職員がカットしている。衣類を一緒に買いに行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、職員が声掛けを行い、準備や盛り付け、後片付けを行なっている。庭で収穫した野菜を使ったメニュー、1,2階合同での食事会等定期的に行い食べることの楽しみを持っていただいている。	業者から納入された食材を職員と共に準備、盛り付け、後片付けを行っている。庭で収穫した野菜を使ったメニューで1, 2回合同での食事会を定期的に行い作ることの楽しみ、食べることの喜びを味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の食事量をチェックし記録に残し、水分摂取量を観察している。食事・水分摂取量の少ない方については、補食や嗜好品で対応している。状態を把握して、食べやすい調理(きざみ・ミキサー)をする。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し、一人一人に応じたケアを実施している。また、状態をみて歯科の受診、往診を受ける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握できるようにチェック表を付け、自ら訴える事の出来ない方は排泄パターンに合わせ誘導をおこなったり、声掛けを行なっている。	トイレでの排泄を基本として、それぞれチェック表を付け、一人一人の排泄リズムをつかみながら定期的に声かけ・見守り・誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の生活の中で体操・マッサージを行ったりし、毎10時のコーヒータイムの時にはオリゴ糖を使用している。乳製品や食物繊維も多く取るように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回を基本に入浴をしている。希望者には出来る範囲で希望時間に入浴を行い、普段入浴を拒否される方で希望があった時は入浴をして頂く。便失禁等で汚染がある時は清潔も含めて入浴を行なっている。	週2回午後入浴を基本とし失禁等で必要な場合はその都度入浴支援をしている。拒否する人には誘導の工夫をし、時には家族の協力も得る。清拭、足浴での対応もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を優先し、夜の就寝前は落ち着くようにゆっくりとお話をしたり、日中はレクや体内時計がくるは無い様に庭に出て頂く等の環境づくりを行なっている。個々の状態に合わせて昼寝をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後に処方された薬の説明書をカルテに閉じ、受診後は必ず確認をする様にしている。特に変更があった時は、口頭でも申し送りを行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や興味を持っている事(家事、園芸、学習、漬物作り等)に参加してもらい生活に張り合いを持てるよう援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のボランティア等の協力で、定期的な外出(防犯パトロール等)の支援や日々、中庭で日光浴をしている。近所や公園に散歩に出掛けたりしている。グループごとに車を使用し外食(寿司、レストラン)遠足に行くこともある。	地域のボランティアの協力で毎週月曜日腕章を付け防犯パトロールに行くこととし、利用者が意欲を持って参加している。庭での日光浴や近所の公園の散歩に出かけている。車で花見や遠足に行くこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に出かけた時は能力に応じ支払いをお願いしたり、購入物を選んで頂いたりいる。常時お金の所持を希望される方には財布を持っていただき自己管理されるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話話しをして頂いてる。手紙、年賀状も本人希望や声掛けにて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には手作りの花壇や畑、季節の花を植えている。施設内は落ち着ける空間にと季節の花の貼り絵やぬり絵等で幼稚にならないように心掛けている。室内の温度にも注意している。	日当たりのよい場所にソファを置き、庭の花壇や畑の野菜を見渡す事ができる。ゆったりと過ごせるスペースがある。ホーム内は手作りの作品があり、目と心を楽しませてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お部屋は個室である為自由に過ごして頂いている。日中はリビングで過ごされている事が多く、リビング内でも個々の落ち着く場所があり、テレビ前のソファであったり、食席であったりと思い思いの場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染みの家具やテレビまた仏壇等を使って頂き、ご本人の落ち着ける空間作りを行なっている。	使い慣れたものや馴染みの物を持って来てもらったり、絵や手作りの壁飾りを飾ったり、安心して過ごしてもらえよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室やトイレ等が分からない方には、ぬいぐるみや絵、名前を大きく貼る等し知らせている。歩行練習をされている方にリビングにテープを貼り歩行練習しやすい様にしている。		